

モデルプログラム Ⅰ-2 日本語指導の計画と実施 –サバイバル日本語の授業設計–

| | |
|--|--|
| ねらい | 来日直後の子どもに教える内容を考える活動を通してサバイバル日本語の目的と指導方法を理解し、指導計画を立てることができる。 |
| 対象 | <input type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員 |
| 日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験 | <input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上 |
| 高めたい資質・能力 | <input checked="" type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input checked="" type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長) |
| 主な内容 | I 日本語指導の計画と実施 H 子どもの日本語教育の理論と方法 |
| 活動形態 | <input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習 |
| 時間 | 60分 |
| 流れ(・項目) | 活動(◇活動の工夫) |
| 1. 日本語プログラム「サバイバル日本語」の目的を確認する。(10分) ・サバイバル日本語プログラム(1) | 1. 日本語指導における「サバイバル日本語」の指導の目的と留意点について、文部科学省の「外国人児童生徒受入れの手引き」等を参考に確認する。 ・目的：学校生活、社会生活の知識と、そこで日本語を使って行動する力を身につける。 ・留意点： <ul style="list-style-type: none"> ・文法的正確さより、メッセージの伝達・理解を重視 ・子どもの状況に応じて、緊急性の高いものから |
| 2. サバイバル日本語の指導項目を考える。(15分) ・日本語指導の内容(シラバス)(H) | 2. サバイバル日本語の指導項目を考える。 1) グループで「受入れの手引き」p.28を参照してサバイバル日本語として指導する項目(表現)を挙げる(場面シラバス・トピックによるシラバス)。 2) 全体で共有する。 |
| 3. 指導の展開を構想する。(15分) ・日本語指導の学習指導案の作成(I) ・学習活動(H) ・教材の分析、教材の作成(H) | 3. 2で検討した表現を取りあげ、以下の点に留意しながら、その表現を指導する際の流れを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面を設定するか。 ・どのような教材・教具が必要か ・どのような活動で練習するか ◇考えた活動の流れを、模造紙等に記録し、共有できるようにする。 |
| 4. アイディアを共有する。(10分) | 4. グループで考えた流れを以下のような方法で、全体で共有する。 1) 教材・教具のイメージを伝えながら、3で検討した指導の流れを報告する。 2) 他グループが考えた活動(メモ)を自由に見て回る。 |
| 5. 講師からの助言を得る。(15分) | 5. 「サバイバル日本語」の活動という視点から改善点や活動のポイントなどについてコメントする。 |
| 6. 振り返る。(5分) ・外国人児童生徒教育の専門性の向上(N) | 6. 本日の活動を振り返り、「サバイバル日本語の授業を設計する際に重要なことは何か」という点から気づきを話し合う。 |
| 備考 | 母語を使って支援を行う地域・団体の研修の場合は、サバイバル日本語指導における効果的な母語の使用について考える時間を持ちたい。 |